

伊丹俳壇

〔月〕坪内稔典 選
(佛敎大学・京都敎育大学名誉敎授、
柿衛文庫理事長)

最優秀賞

月光の法被羽織りて太鼓打つ

小野 史(東京都足立区)
月の光の中で太鼓を打っている人の躍動感、それを「月光の法被」という表現が生きてきたとらえた。優秀句の「老」「窓の月」も、老人にとつての月を具体的に表現している。

優秀賞

しんと海しいんと二人しんと月
名月や即かず離れず老い二人
十五夜の月道連れに夜行バス
月光に折鶴手から飛んでゆく
頬杖の後期高齢窓の月
遠野かなみ(福島県南相馬市)
諸富 千歳(伊丹市)
伊賀 豊子(川西市)
小松 房子(伊丹市)
平 きみえ(伊丹市)

伊丹歌壇

〔キッチン〕 尾崎まゆみ 選
(玲瓏選者、神戸新聞文芸短歌選者、
現代歌人協会会員)

最優秀賞

天気雨けふはきつねの大安がおひるのうとんにお揚げをのせる

松城 ゆき(滋賀県草津市)
晴れているのにふる雨は、狐の嫁入りともいう。台所で、やさしい言葉を出しながら、お昼のうとんにお揚げをのせて「狐嫁」にする。ふんわりと温かな気持ちになる歌は、うれしい。

優秀賞

考えるちいさき草との攻防に通せんぼしてキッチンのなか
雑誌より300円安い時給さ ザザザ、ザザザささむ玉ネギ
遠野かなみ(福島県南相馬市)
まな板を置くと危うい風いだ夜もオクラの星が瞬きがちた
堀 紀彦(滋賀県高島市)

厨房にふたりの息子入れ料理楽しむことの食育記録
小田 和子(明石市)
獣の皮はぐが如くにはがしゆくあまたの竹の子転がるキッチン
瀬戸内 光(山口県光市)



次回の兼題は、俳壇は「春の海」、歌壇は「靴」とします。応募は1人各1作品、自作未発表作品に限る。応募締切は、12月15日(必着)。最優秀賞には図書券千円を、また伊丹歌壇の最優秀賞者には、レダの靴を履いて(尾崎まゆみ著)を進呈。左のQRコードを利用すると、スマートフォンからも応募できる。問い合わせは、ことば蔵へ。

市民参加型の取り組みが脚光浴びる

いたみアーカイ部

酒造り唄をオープンデータに

本誌復刊19号で取り上げた「いたみアーカイ部」の取り組みが、平成31年3月、京都大学で開催の「デジタルアーカイブ学会第3回研究大会」で発表され、注目を集めている。
いたみアーカイ部は、ことば蔵を拠点に伊丹の歴史や文化、

景観などを整理して記録し、紙媒体やウィキペディアなどのデジタルコンテンツに残す取り組みを続けている。
直近では「伊丹の酒造り唄」をオープンデータ化し、清酒発祥の地・伊丹の文化を全世界に発信した。行政主体ではなく、市民が主体となつて地域資源をデジタルアーカイブにした例は少なく、同研究大会では好事例として紹介された。

課題もある。「歴史的音源」である酒造り唄をオープンデータ化するにあたっては、作者や歌唱者などを含む著作権者全員の同意が必要であり、非常に手間がかかる。その許諾を得るための方法も確立されていない。



伊丹の酒造り唄を披露する杜氏ら＝旧岡田家住宅で

公共図書館は、



林やよい
伊丹市在住。毎日新聞兵庫版にイラストエッセイ「くるまいすまい」を連載中。



酒造り唄とは

「酒」に関する歌は多いが、日本酒を造る各工程で唄われる歌を取り上げたい。これらは「酒造り唄」と呼ばれており、七七五調で調子の良い都々逸風の唄である。

まず、酒造りの第一段階、仕込みに使う道具や容器を洗



部長の三鼓由希子さんは「今回、我々がウィキペディアに立项した『酒造り唄』のページは、全国各地から追記され、さらに内容が充実しています。これこそ市民が作るアーカイブで、演劇、音楽、工芸技術などの無形文化財の保存につながっていることをうれしく思います」と話している。

私たちの祖先は約70万年前から二足歩行をしてきたとされ、300万年〜400万年前のヒト族の化石からは確かな二足歩行が確認できる(『進化の教科書』から)。

こんな難しいことを、これから語ろうというのではない。実はだいぶん前から動物園に行つたとき、カバ、フラミンゴ、孔雀、みんなそれぞれの体に見合った足を持っているという当たり前のことが気になり始めた。今では動物園に行つたら、すぐ動物や鳥などの足に注目するのが癖になった。

カバの足は大阪の天王寺動物園に行けばよく見える。昆虫の足は6本、鳥は2本。これらの足が私みたいに痛くなるのだろうか、聞いてみたい気がする。

私の場合は膝関節のクッションの役目をする「接着剤」が減ってカスカスになり、歩くのが困難。特に階段がづらい。

友の紹介で整形外科に行つたら、「手術をするか、二週間に一度、膝にヒアルロン酸の注射をし、我慢できないときは痛み止めか、どちらにしますか?」。

うーん手術はイヤ、イヤだ。注射することにして、薬はなるべく飲まないようにしよう。

足は大事、大事だ。これをやられたら、どこへも行けなくなる。手や腕があるといつても、逆立ちでは歩けない。まだまだ伊丹の街をウロウロしてみたいし、故郷にも帰ってみたい。膝の痛さがちよつとでも軽くなつて、できれば思いっきりスキップしてみたい。令和元年七十九才の夢であります。

思いっきりスキップしたい〜79歳の夢

上島鬼貫の句
桜咲頃

鳥足二本

馬四本

(平きみえ)

い唄」「飢すり唄」など4種あると言われる。

そのうち「謡物の唄」では、何度も伊丹の名が唄いこまれてる。「清酒発祥の地」を標榜する本市としては、やはりこれは誇らしい!

(ときわ喜多)

